

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900021
法人名	社会福祉法人 慈光会
事業所名	グループホーム 幸
所在地	〒824-0511 福岡県田川郡大任町大字今任原3401-116 0947-63-
自己評価作成日	平成30年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成30年3月10日	評価結果確定日	平成30年3月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然環境の中、入居者様の方々が地域の住民の一員としてゆったりと穏やかに過ごせる住環境となっております。当事業所では入居者様の日々の過ごし方を大切に、毎朝の体操やレクリエーション・思い思いの外出支援など多く取り入れながら、日々の生活を楽しく過ごせるよう努めております。楽しみの一つとしては当法人の最大のイベントでもある初盆会・敬老会を隣接している特別養護老人ホームと連携し、地域住民の方・顔馴染みの方々など多くの人達に参加して頂き大変喜ばれております。また月に一回昼食作りやおやつ作りを取入れ、入居者様それぞれの役割を担いながら共同作業での達成感や喜びを共に分かち合ってもらえるよう努めております。終の棲家として家庭的な雰囲気の中、入居者様それぞれが安心して過ごせる生活環境を提供しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人特別養護老人ホームが隣接し、法人行事(初盆会・敬老会)を通じた地域交流の機会や、災害対策における協力体制、馴染みの関係性の継続等にて連携を図っている。2階建て1ユニットの居住スペースは、個別の暮らしの継続や居場所の確保に配慮されており、自由な雰囲気がある。特に2階の各居室においては、持ち込みの品々も多く、生活感にあふれる印象的なプライバシー空間となっている。機能維持・活用や活動性を高めるための体操やレクリエーションを取り入れ、定期的な御不動さん参りや畑作業、自身で行きつけの美容院を予約する方等、馴染みの関係継続に向けた外出支援にも取り組んでいる。今後も地域拠点としての活動展開が大いに期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここがあなたの幸でありつづける家」を掲げ、ここの住民として思いやりをもって、支え合いながら過ごせる環境作りに取り組んでいる。職員間のチームケアを大切に実践に繋げている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた独自の理念を作成し、職員心得とともに朝礼時に唱和を行っている。また、幸のスローガンも作成され、職員間の浸透を図りながら実践に結び付けるよう取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やホーム内の活動・隣接している他施設との合同で行う行事にも参加しており、地域の方との交流は定期的に行っている。	近隣に民家が少なく、日常的な交流は難しい面もあるが、地域のスーパーでの買い物や、隣接する同法人施設行事(初盆会・敬老会等)には地域からの参加も多く、盆踊りや出店を楽しむ機会がある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで現在の入居者様の状況など報告している。また、さまざまな行事等にも参加して頂き、認知症の理解を得ている。当施設としては認知症に対する相談窓口として声掛けをしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月の取り組み状況を報告している。参加者からの意見を聞かせて頂き、サービスの質の向上に繋がるようスタッフ間にも伝えている。	運営推進会議には、複数の家族や町役場担当者、地域包括支援センター職員の参加を得ている。運営状況や事故、苦情等の内容を共有し、意見や提案を運営に反映させるよう努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の職員や地域包括支援センターの方の運営推進会議の際には参加して頂き、事業所のサービス状況をお伝えし協力関係を得られるよう努めている。	運営推進会議には、町役場担当者及び地域包括支援センター職員の参加機会があり、事業所の実状を共有し、開かれた事業運営に努めている。不明な点の問い合わせや保護課担当者との情報共有等、窓口に出向くことも多い。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する事業所内の研修をおこなっている。日頃より玄関は施錠しておらず、いつでも外出出来るような環境作りを努めている。	身体拘束排除や尊厳等の研修実施を通じて、職員の意識向上と共有認識を図っている。日中の施設は行われておらず、外出機会の拡大等、活動性の向上に努めている。また、行方不明者対策・捜索に関する研修も実施されている。自室に自ら施錠される方もおり、個別の距離感を意識しながら見守りを行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する事業所内の研修を行っており、職員間には周知徹底している。日頃より各スタッフの対応が人権侵害にあたらぬか念頭に置いて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ利用はないが、内部研修などで学習する機会を設けている。また、そのような時には行政職員にアドバイスを求めるなどしたい。	全職員を対象として、成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する研修を実施し、共用空間には資料を掲示している。現在税度を活用されている方はないが、必要時は関係機関との連携を図り支援を行っていく体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書及び契約書にて十分な説明を行っている。納得して頂いた上で、署名・捺印して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議の際に、運営に関する意見を聞かせて頂いている。それらの意見を全スタッフに伝え、実践している。	運営推進会議の開催を広く家族に案内し、実際に複数の家族の参加を得ている。日常の面会時や法人行事(初盆会等)には家族の参加も得ており、意見の言い易い関係づくりに努めている。家族より、職員の言葉使いについて注意を受け、職員への周知徹底に取り組んでいる。また家族の要望もあり、日中はオムツを使用しないケアに取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでもスタッフが意見や提案を言いやすいような関係性を作っている。早期解決出来るよう日々努力している。	朝礼時や毎月の職員会議開催時に、職員の意見や提案の収集に努めている。レクリエーションや機能活用の取り組み等の提案もあり、実践への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、より良い労働環境の形成が出来るようスタッフから意見を聞き、勤務状況や個々の能力等を理解し評価している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては年齢・男女別で排除していない。また資格取得バックアップも優先的に公休を与えるなど考慮している。今年度は介護支援専門員・介護福祉士各一名ずつ受験している。	職員の採用にあたり、適性や人柄を重要視し、年齢や性別等による排除は行っていない。有給の取得や勤務シフト調整に配慮し、資格取得等をサポートしている。レクリエーション等、職員個々の得意分野の発揮や主体的な成長を促している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修などで人権・尊厳が守られているか確認している。「その人らしく生きる」サービスを提供出来るよう周知徹底している。	尊厳や高齢者虐待防止、権利擁護制度、コンプライアンス等の研修を実施し、多面的な視点から職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を月に一回開催しており、スキルアップが図れるよう努めている。日々の業務の中でトレーニングを進め、資格取得希望者には柔軟なシフトを組み対応している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の情報交流や他施設との交流は図られている。管理者は他施設に訪問するなど、定期的に見学させて頂きサービスの質の向上に努めている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは十分なコミュニケーションを図ること重要視している。入居者様が何でも言えるような関係性作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけ御家族様の要望等を聞き、福祉のプロとして適切なアドバイスをすることで信頼関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域の窓口として入居者様や御家族様の要望を聞かせて頂いている。さまざまな要望を考慮し適切なサービスが提案出来るよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様・スタッフという関係にとらわれず、お互いが1つの家族として過ごしているような関係性作りを築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	より良いサービスを提供していく為には、ご家族様の協力は必要不可欠である。御家族様・スタッフ双方が助け合えるような関係性作りに努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接している施設に友人がおられる方は、定期的に行事等を通じて交流している。また御家族様から情報提供して頂き、外出時に馴染みの場所へお連れすることもある。	携帯電話を利用し、利用者自身が行きつけの美容院の予約を行い、送迎を支援したり、自宅に風を通すための外出支援を行っている。家族や知人の来訪する機会も多く、隣接する同法人施設に入居される友人との相互訪問も支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝の体操やレクリエーションを通じ、入居者様同士の交流の場を提供している。極力居室に閉じこもらないように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に及び御家族に関しては、電話連絡などあれば相談や支援に努めている。いつでも相談に応じられるような関係性を構築している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、入居者様の思いや希望に対し出来る限り応えられるよう努めている。	洋服を選ぶ際や買い物に出かける時など、何気ない日常の場面で選択や自己決定できるような支援を心がけている。日々の記録が丁寧に残され、日常の様子がわかりやすく、職員間で共有されている。また、得られた情報を実践や介護計画作成に反映するよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時や面談時に、なるべく詳しい入居者様の生活歴を聞かせて頂き支援計画に結び付けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様のある程度の生活リズムをスタッフは把握している。いつもと状態が違うようであれば、様子観察を徹底している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで入居者様より要望を聞いている。また御家族様からも面会時や電話連絡にて要望を聞き取り、これらの内容を含め三カ月一回介護計画を見直している。	日々の記録には心情の変化等が細やかに残され、日常の様子がわかりやすい。定期的なお不動さん参りや畑作業、日課の継続等が盛り込まれている方もおり、個性ある介護計画が作成されている。定期的にあえて担当者を変更し、異なる視点を確保しながら、計画作成担当者により評価が実施されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の心身の状況を介護記録に残している。管理者及びスタッフは記録を確認し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な状況に対応して行けるよう、常時話し合いの場を持ち早期解決出来るよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様それぞれの心身の状態及び地域資源を把握し、こらからの生活が安心・安全に送れるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医をそのまま引き継いでいる。受診の際、情報交換することで適切な医療を受けることが出来ている。変わりがあれば、その都度御家族様に報告している。	これまでのかかりつけ医への受診が継続できるよう支援し、職員が同行する機会も多い。健康状態や受診状況について家族との情報共有に努め、必要時には受診に同行してもらい、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師を週に一回利用している。訪問時には情報交換を徹底し、適切なアドバイスを求めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはソーシャルワーカーや病棟Nsと連携を密にしている。その際、フェースシートなどにより情報提供している。入院中は出来る限り、面会に行くよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する御本人様・御家族様の考えを十分に聞きながら、グループホームで出来ること・出来ないことを説明し意向の確認を行っている。医療関係者との連携し対応出来るよう取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに説明を行い、同意書を作成している。状況の変化に伴い、家族や医師との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より日々の状態観察と把握を徹底している。異常時には迅速な対応が出来るよう、内部研修で急変時や事故発生時の対応方法を周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を実施することで、全職員が把握出来ている。実施の際には、併施設などから協力が得られている。	火災や地震、風水害に対応するマニュアルを整備し、消防署の指導のもと、年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。訓練時には隣接する同法人施設から職員が駆けつける時間を計測し、2階部分には避難用スロープも設置されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、プライドや羞恥心に配慮した声掛け・対応を全職員が心掛けています。	居室入ロドアの窓にカーテンを設け、プライベート空間への配慮を行ったり、男性用・女性用トイレを区別する等の配慮も行われている。言葉かけについて家族より注意を受け、職員への周知徹底を図り、意識改善に取り組んでいる。尊厳や法令遵守、プライバシー確保について研修を実施している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	YES・NOの閉ざされた質問だけではなく、どうしたいですか？と開かれた質問をすることで自己決定へと導いている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活リズムを大切に、入居者様それぞれのペースで過ごして頂けるよう努めている。行事やレクリエーションへの参加は、無理強いはせず出来る限り参加して頂くよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から外出時には身だしなみに配慮している。お誕生日会にはお化粧をして頂き、写真撮影をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で、何が食べたいかリクエストをして頂いている。昼食とおやつを月に各一回づつ入居者様と一緒に作っている。	食事は法人厨房より提供され、炊飯を事業所で行っている。2階では職員が同じテーブルを囲み同じ食事を摂っている。事業所での食事作りとおやつ作りを月に1回づつ機会を持ち、食のプロセスを楽しむ機会がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた食事を提供している。毎食後の摂取量と水分量をチェックしており、スタッフひとり一人が把握している。アレルギーのある方や食事形態にも配慮し提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り御本人様の残存機能を生かした対応をしている。必要に応じ、スタッフが介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中においては出来る限り、紙パンツの使用を促している。その人その人の排泄パターンでトイレへ誘導しており、その際出来る限りのことはして頂いている。	個別の排泄状況の把握に努め、日中はトイレでの排泄を基本とし、細やかな声掛けや誘導により、オムツを使用しないケアに取り組んでいる。個別の便秘予防にも取り組み、自然排便となるよう食物繊維の摂取や水分量の確保、運動等を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量や活動量・食事にも配慮している。入居者様の中にはハブ茶が便秘に良いとのことで、毎食提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜から土曜までを入浴日としている。入居者様の希望を尊重し、自由に入浴の日を決めて頂いている。現病歴から半身浴やシャワー浴にて対応させて頂いている方もいる。	日曜日以外、入浴準備を行い、シャワー浴も含めて週に3回程度の入浴となるよう支援している。時間帯の指定をされる方もおり、拒否される方にもタイミングや時間を工夫する等、無理強いとしないよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人その人に合わせて、ゆったりとした時間が流れるよう努めている。気持ちよく睡眠が出来るよう、居室の室温にも配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が薬の効能や副作用を把握している。処方内容の変更があれば、その都度申し送りにて情報を共有している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣向や生活歴を把握し、入居者様が楽しめるようなレクリエーションを取入れている。お誕生日会のカラオケは大変好評である。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診の帰りなど、入居者様の希望があれば、買い物に行くなど希望に沿った対応が出来るよう努めている。 気候が良ければ近隣に散歩へ出かける方もおられる。	信仰の継続として、毎月、不動院にて3時間程度一人で過ごす方や、行きつけの美容院の予約を自身で行い送迎のみ支援している方等、個別の支援が行われている。大衆演劇を観劇に出かけたり、日用品の買い物にも出かけている。季候が良ければ、周辺や隣接施設の敷地内の散歩に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の約半数ほどの方が、現金や通帳の管理をされている。お金の管理をされている方達については、金銭トラブルによるリスクを了承して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の中には携帯電話を所持されている方もおられ、定期的に御家族などへ連絡されている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや温度調節に配慮し、常に清潔にしている。自然と共用空間に人が集まるような間取りにしている。	以前は医院であった建物を改修されており、どこか懐かしい雰囲気があり、1、2階の1ユニットの事業所である。共用空間はゆとりある広さがあり、ソファ設置等くつろぎの場所が確保されている。2階部分には階段やリフトで昇降し、非常時には隣接施設敷地内へつながる廊下も設けられている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間は居室のみである。 共用スペースにて顔馴染みの入居者様が集まり、楽しく過ごせる空間は確保出来ている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、これまで使っていた物を持ち込んで頂くようお話させて頂いている。各入居者様により特色のあるお部屋になっている。	馴染みの家具や信仰の継続のための対象となる品々、テレビや冷蔵庫等の電化製品等が持ち込まれており、生活感あふれる居室づくりは、当事業所の大きな特徴である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設は老朽化しており、施設内の設備については懸念されるが、スタッフひとり一人が自覚をもって対応している。ホームでの生活を安心かつ安全に過ごせるよう努めている。		